

参 考 手 本

盛徳足らざる若し

盛徳
不足
若

成瀬映山先生

※これは規定課題ではありません。

参 考 手 本

山鐘夜雪の時

山 鐘
夜 雪
の 時

高 木 聖 雨 先 生

※これは規定課題ではありません。

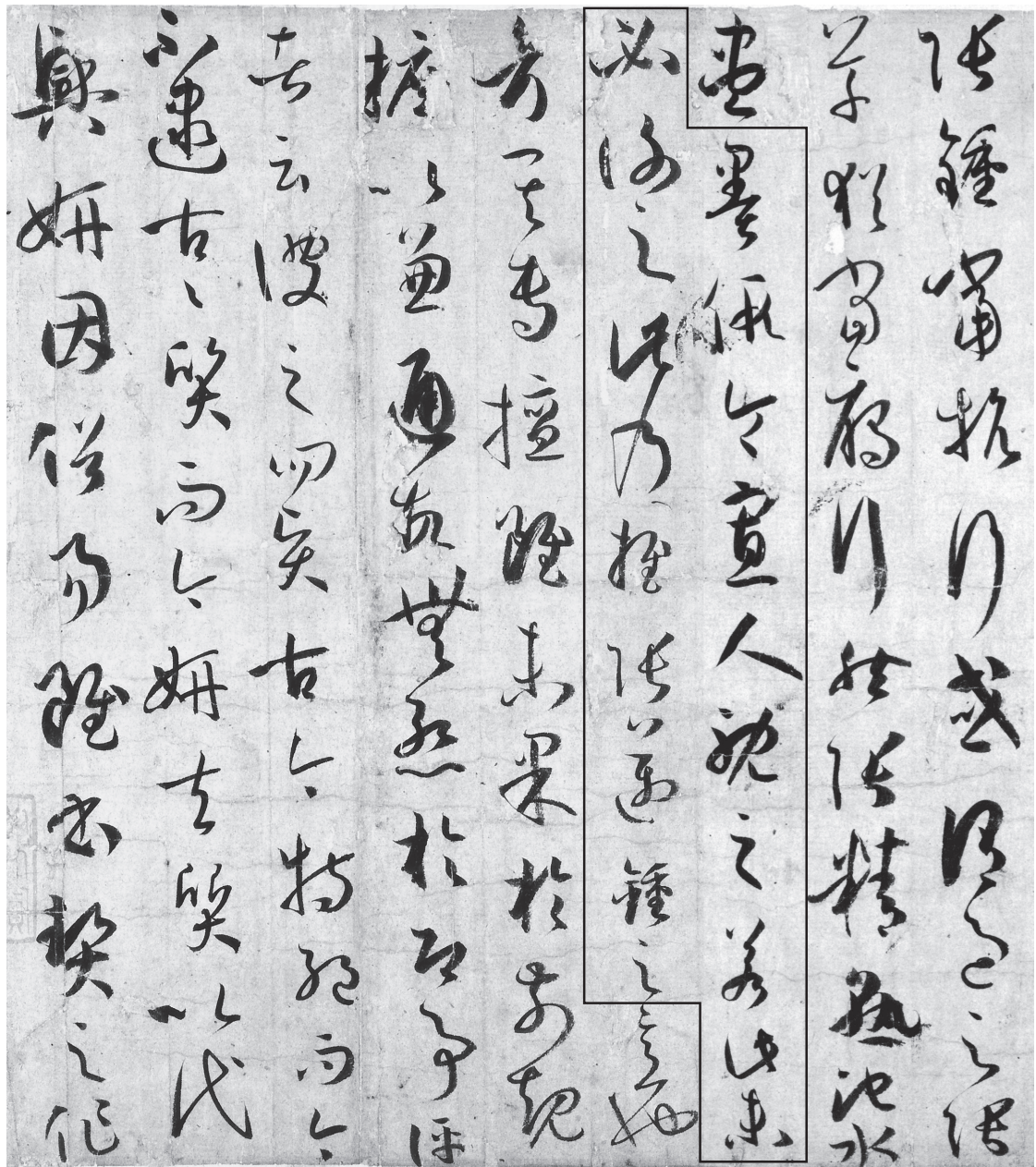
条幅規定

A 部（準五段以上）

『書譜』

⑥

孫過庭



墨假令寡人耽之若此未
必謝之此乃推張邁鍾之

「この課題を同月の条幅随意には出品出来ません」

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

張。鍾當抗行。或謂過之。張草猶當鴈行。然張精熟。池水盡墨。假令寡人耽之若此。未必謝之。此乃推張邁鍾之意也。考其專擅。雖未果於前規。撫以兼通。故無慙於即事。評者云。彼之四賢。古今特絕。而今不逮古。古質而今妍。夫質以代興。妍因俗易。雖書契之作。

鍾には當に抗行すべく、或いは謂えらく、之に過ぎんと。張の草には猶當に鴈行すべきも、然れども張は精熟して、池水尽く墨となる。假令寡人之に耽ること此くの如くんば、未だ必ずしも之に謝じずと。此れ乃ち張を推して鍾に邁ぐとするの意なり。其の專擅を考うるに、未だ前規より果ならずと雖も、撫りて以て兼ね通ず。故に即事に慚ずる無し。評者云く、彼の四賢は、古今の特絶にして、而して今の古に逮ばざるは、古は質にして今は妍なればなりと。夫れ質は代を以て興り、妍は俗に因りて易わる。書契の作るや、

【今月の課題】

「墨假令寡人耽之若此未
必謝之此乃推張邁鍾之」

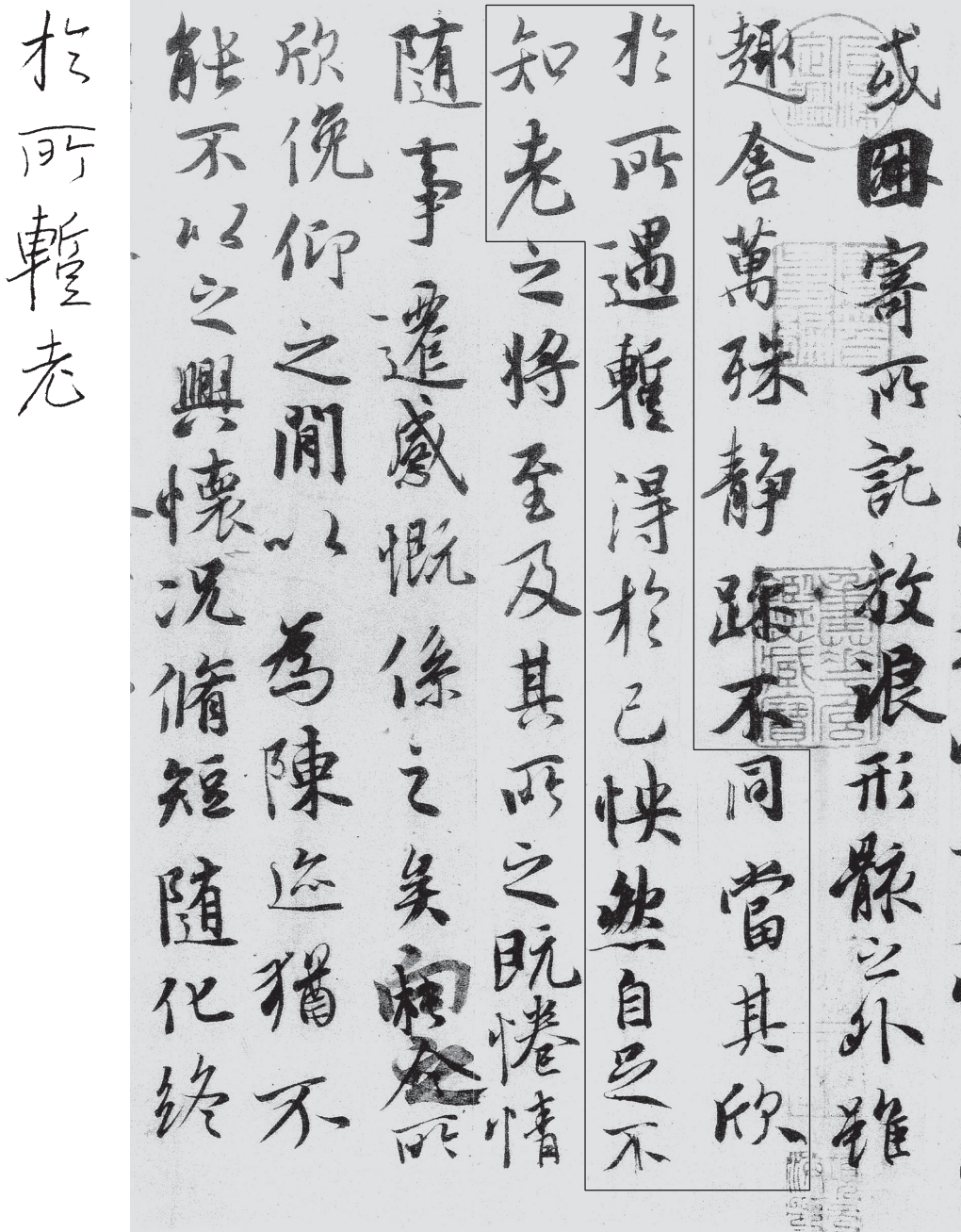
(20字)

(11月10日締切)

条 幅 規 定

B 部（四段以下）

『蘭亭叙』
王羲之（東晋）



或因寄所託。放浪形骸之外。雖
趣舍萬殊。靜躁不同。當其欣
於所遇。暫得於己。快然自足。不
知老之將至。及其所之既倦。情
隨事遷。感慨係之矣。向之所
欣。俛仰之間。以爲陳迹。猶不
能不以之興懷。況脩短隨化。終

或いは寄せて託する所に因つて、
形骸の外に放浪す。趣舍万殊にし
て、静躁同じからずと雖も、其の
遇う所に欣び、暫く己れに得るに
当たつては、快然として自ら足り、
老の將に至らんとするを知らず。其
の之く所既に倦み、情は事に随
いて遷るに及んで、感慨之に係われ
り。向の欣ぶ所は、俛仰の間、以
に陳迹と爲るも、猶お之を以て懷
を興さざる能わず。況んや脩短は
化に随い、終に

【今月の課題】

「同當其欣於所遇暫得於
己快然自足不知老」

(18字)

「この課題を同月の条幅随意には出品出来ません」

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

(11月10日締切)

曹全碑（漢・作者不詳）

在為雄君高

半紙規定（一）



※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

所在に雄たり。君の高祖父敏は

九成宮醴泉銘（唐・欧陽詢）

來寔扶明聖

半紙規定（二）



※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書
〔二級以下〕楷書

來れるは、寔に明聖を扶くるなり。

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕

（11月10日締切）

条幅参考手本

細野江華先生

對酒不覺暝
落花盈我衣
醉起步溪月
鳥還人亦稀

江華書

對酒不覺暝 落花盈我衣 醉起步溪月 鳥還人亦稀

酒に對して暝るるを覚えず 落花我が衣に盈つ 酔より起きて溪月に歩めば 鳥還つて人も亦た稀なり

主幹 菅野翠濤

玉階生白露
夜久侵羅襪
却下水精簾
玲瓏望秋月
少精生白露
玲瓏望秋月

玉階生白露 夜久侵羅襪 却下水精簾 玲瓏望秋月

玉階に白露生じ 夜は久しゅうして羅襪を侵す 水精の簾を却下して 玲瓏秋月を望む

石月
如月
子
如月

(11月10日締切)

夜もすがら木の葉がたよる音聞けばしのびに風の通ふなりけり(熊谷直好) ※ちらし文字変換は自由

可多支个盤志日耳可勢可不奈利个理

支部名 段 姓 号 (鉛筆)

ねとら
音
あひま
なつみ

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

実 用 文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

書を学んでいると行書は解り
やすいが壁の一つに草書・変体
かなが出てきます。これら書体
も楽しく学びたいものです。

支 部 名 段 級 姓 号

石 田 輝 仙 先 生

(11月10日締切)

細

— 12 —

硬筆（１級以下）

2行、楷書

優れた詩の言葉は、読む者の心に入って深い感動を生む。
支部 級 姓 号

田 辺 翠 鶴 先生

硬筆（初段以上）

3行、行草書

畑に並ぶ野菜たちが、光をまとって、
並んでいた。実りには時月と手間の
の記憶が宿っている。

支部名 級 姓 号

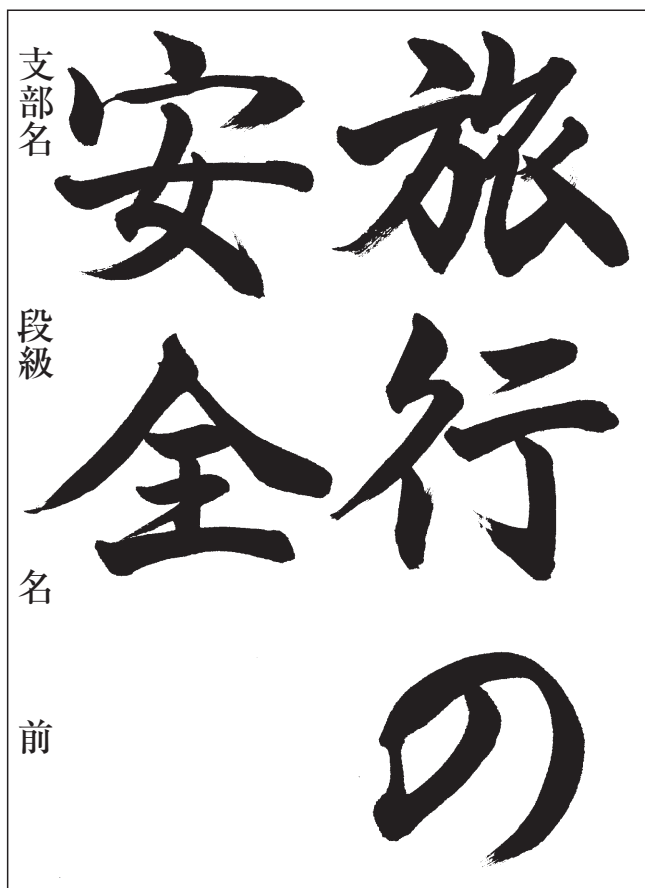
…野菜…並んで…時間…宿って…。

青 柳 江 雲 先生

※本院定型用紙・たて半分に書く

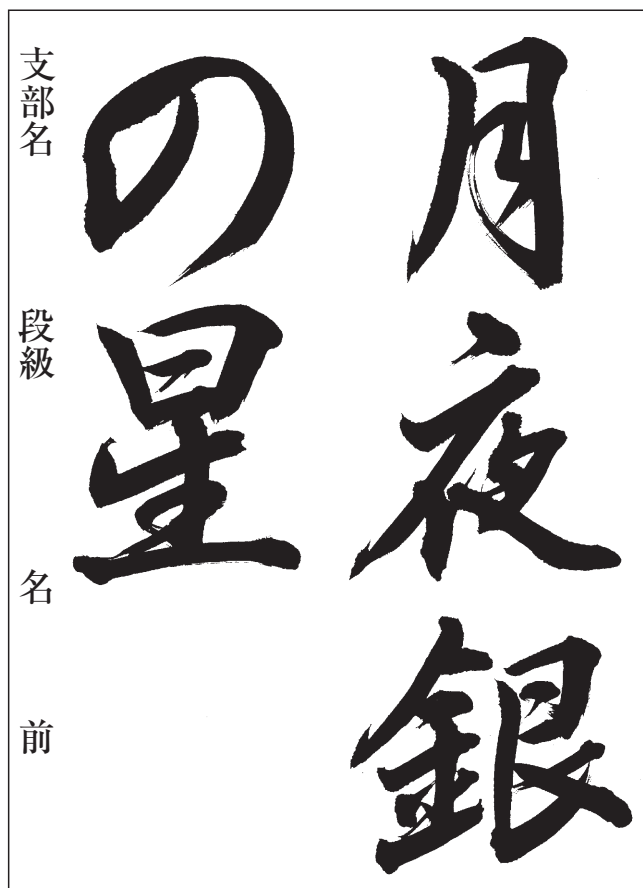
(11月10日締切)

中2用



渡邊南嶂先生

中3用



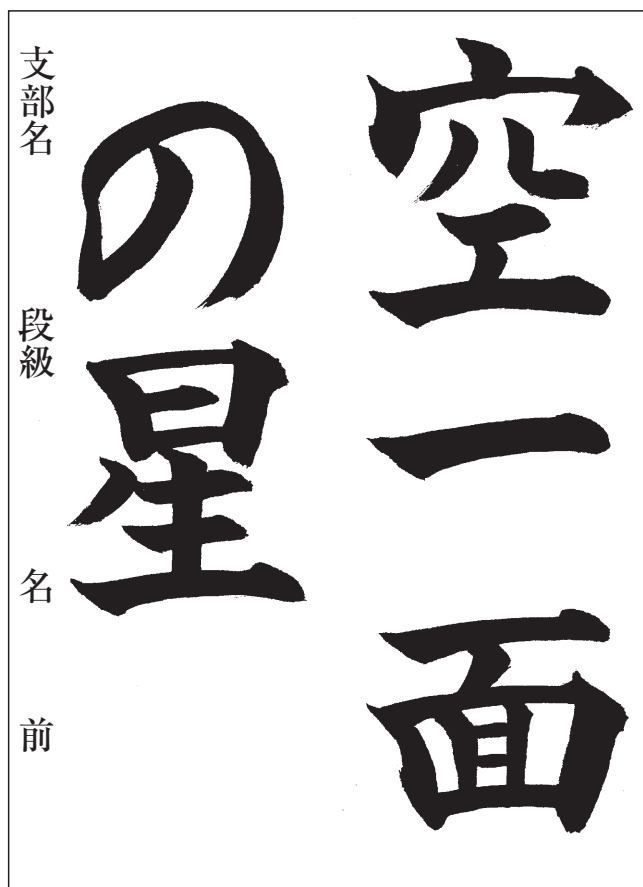
大越三宗先生

小6用



渡邊南嶂先生

中1用



渡邊南嶂先生

(11月10日締切)

小4用



大
越
三
宗
先
生

小5用



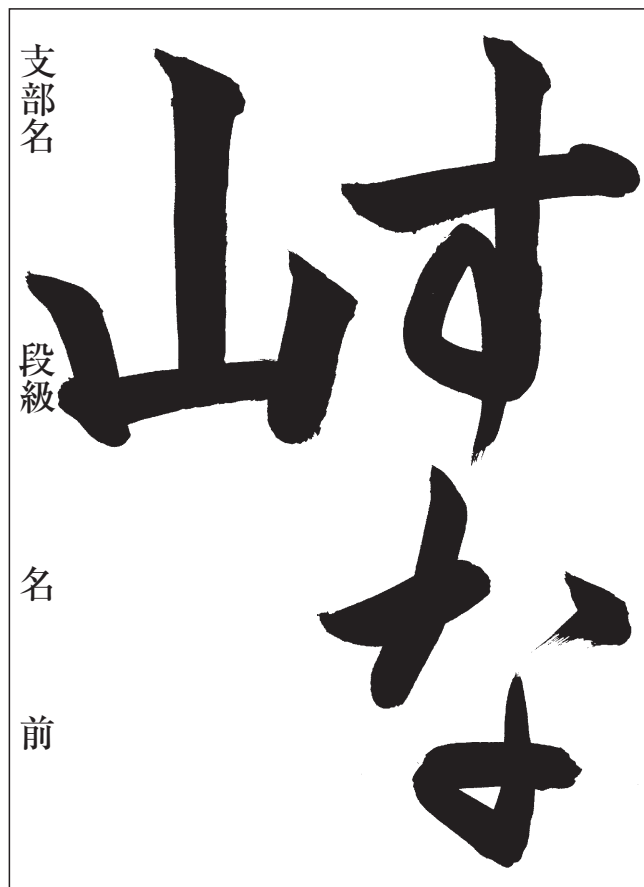
大
越
三
宗
先
生

小2用



鈴
木
翡
恵
先
生

小3用



鈴
木
翡
恵
先
生

(11月10日締切)

中1

高原の清らかな空気を
胸いっぱい吸った。

中1～中3

中2

真っ赤な夕焼け空に、
鳥が一羽飛んでいた。

青柳江

中3

桜前線は北上し、紅葉
前線は南下して行く。

雲先生

小1・幼年用

支部名

段級

名

前

七
さ
ら

鈴木 恵 先生

小1・幼年

しばふにねころんで、
そらをみていた。

小1～小3

小2

あきの空は、くもが一
つもなくすんでいる。

齊藤 翡翠

小3

草むらで、虫のなき声
が聞こえてくる。

流先生

小4

山は赤や黄の葉で、美
しくいろどられた。

小4～小6

小5

朝の湖は太陽に照らさ
れてかがやいている。

鈴木 蕙

小6

夕焼けに、空も海も真
赤にそまっ、て美しい。

翠先生

(11月10日締切)

中学部かな課題

船久保 棠苑 先生

支部名

段級

名

前

雨の月
うすあかり

小学部小筆課題

支部名

段級

名

前

庭にさく

白ぎくの花

主幹 菅野 翠 濤

※半紙半分に書いて下さい。(11月10日締切) ※半紙半分に書いて下さい。

12月10日締切課題予告

A部条幅規定 意也考其專擅雖未果於前規撫以兼通故無慙於

B部条幅規定 之將至及其所之既倦情隨事遷感慨係之矣

かな条幅規定 うす墨になぎさの砂のうるはる冬のゆふべを千鳥なくなり(若山牧水)

半紙規定(初段以上) 祖父敏舉孝

半紙規定(一級以下) 既可鑄茲沈

半紙かな(初段以上) 有明の海のにごりに鴨あまたうかべり船は島原に入る(若山牧水)

半紙かな(一級以下) 古郷は雲の先也秋の暮れ(小林一茶)

実用文 割り箸の袋やお菓子の包装紙お店の看板などに変体がなや草書を散見することがあります。少しずつ覚ええると良いです。

一般硬筆初段以上 墨の濃淡が文字に表情を与え、奥行きを生む。濃く淡く線を使い分け、筆を通して感情が現れる。

一般硬筆一級以下 成し遂げんと決心したる目的を唯一の敗北によって捨て去るな。

12月10日締切学生部課題予告

中三毛筆 漢字の音訓

中三硬筆 自然を破壊しない科学の発達が望まれる。

中二毛筆 静かな晩秋

中二硬筆 優れた芸術は、時代をこえて愛され続ける。

中一毛筆 雪の降る日

中一硬筆 情報化の時代にどう対処すべきか考えよう。

小六毛筆 初雪の山

小六硬筆 人間が他の動物とちがう点は火を使うことだ。

小五毛筆 石油の里

小五硬筆 新しいカーテンで、部屋が明るく感じられた。

小四毛筆 糸あみ

小四硬筆 図書かんで、ゆつくりと本を読みたい。

小三毛筆 さむ空

小三硬筆 すてきな音楽は、こころよい気分になれる。

小二毛筆 ポスト

小二硬筆 大きなとりがゆうゆうと空をとんでいます。

小一毛筆 よる

小一硬筆 おじいちゃんと、りんごえんにいきました。

中学部かな 銀杏にちりぢりの空暮れにけり

小学部小筆 秋の空 わたり鳥飛ぶ